

平成30年度
キャンパスガイド

基礎教育



基礎教育

基礎教育の目標と内容

本学の教育目標は、高度で普遍的な教養を身につけ、専門的な知識・技術を修得した行動力のある専門的知識人・技術者を育成することにあります。

本学は平成 26 年度から、新しい教育課程をスタートさせています。この基本方針では学部段階の教育を学士課程教育と称しており、基礎教育と専門教育からなる課程在籍期間（4・6 年間）の教育活動全体を通して、学生の学修成果という観点から教育カリキュラムを構築することを目指しています。

学士課程教育は、これまでの共通教育、専門教育といった区分にとらわれず、学生の学修成果という観点から、基礎、応用、発展の連続した段階で、課程在籍期間（4・6 年間）の教育活動全体を通じて教育課程を編成します。

基礎教育科目は導入科目、課題発見科目、学士力発展科目の 3 つの区分から構成されます。スキル系の導入科目は学士力関連の知識・スキルの育成を、専門基礎を含む導入科目は専門分野固有の知識・スキルの育成を、課題発見科目は学士力の態度・志向性の育成を、学士力発展科目は学士力と専門分野固有の両領域に関わる知識・スキル及び態度・志向性の育成を主に担っています。

1. 導入科目

「導入科目」は、学習スキル、コミュニケーション・スキル、情報倫理、数量スキル、異文化理解等、大学で必要となる基礎的能力を学修します。

(1) 「大学教育入門セミナー」(2 単位)

学生が大学での生活と主体的な学習活動が始めるに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、所属する学科・課程の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解すること、及び大学教育の基礎となるライティング等の知識・スキルを、協同学習などのアクティブ・ラーニングによって学ぶことを目的とする科目です。

(2) 「情報・数量スキル」(2 単位)

コンピュータの基本事項や情報の概念を理解し、ネットワークの利用、ソフトウェア（ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等）の活用、情報セキュリティ・情報倫理などについて学びます。さらに、ICT を用いて、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、それらを情報倫理に則って効果的に活用できる技能（情報リテラシー）と、数量で示された事象を表やグラフで適切に表現し初歩的な統計判断を行うことができる技能（数量スキル）を修得する科目です。

(3) 「外国語コミュニケーション」(10～12 単位)

① 「英語」(8 単位)

外国語コミュニケーション（英語）では、学習者が在学中及び卒業後の将来にわたって関わる専門分野で実際に使える英語能力を身につけることを目的とする科目です。

② 「初修外国語」(4 または 2 単位)

外国語コミュニケーション（初修外国語）は、英語以外の言語との出会いと初歩的な語学学修から異文化理解へと内容を展開し、異文化に対する学生の興味を喚起することを目標とする科目です。

(4) 「保健体育」(2 または 1 単位) ※教育学部と医学部（看護学科）のみ必修

身体発達の成熟・完成期にある大学生として、大筋群を用いた直接的身体経験であるスポーツという文化を理解し、健康の保持と増進、身体能力の維持と向上を目指し、活力ある大学生活と生涯スポーツの基盤形成を図ることを目標とする科目です。

(5) 「専門基礎」(2～8 単位)

専門教育の基礎となる知識・技能を修得する科目です。

2. 課題発見科目

「課題発見科目」は、少人数のクラス編成によるグループ学修等のアクティブ・ラーニングを教育方法の特徴とし、知識・理解の修得に加え、論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力、生涯学習力等の育成を目指します。

(1) 「専門教育入門セミナー」(2 単位)

学生が学部の専門分野で主体的な学習活動が始めるに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、専門的学問分野で解決すべき課題を発見し、それを解決するための手法を学ぶことを目的とする科目です。

(2) 「環境と生命」(2 単位)

本学の理念・目的に記されている「生命科学」と「環境保全」の教育・研究を実現するための基礎科目として設定されており、生命現象への理解を深めるとともに、環境と生命の関係を科学的、論理的に考察し、生命にとって必要な環境、人間

にとって必要な環境を理解し、環境問題の原因と本質を系統的に探ることを目的とする科目です。

(3) 「現代社会の課題」(2単位)

現代社会において課題となる、人文・社会・地域・自然の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解します。

① 「社会と人間」

「社会と人間」の領域では、社会問題の具体的な諸領域を事例にして、現代社会の抱える諸問題を学ぶことを目的とする科目です。幅広い分野を学ぶことで、複雑・多様な現代社会に対処するための高い倫理観と責任感を育み、様々な思想、文学、芸術や異文化に触れることにより、豊かな人間性を涵養し、人間への理解と共感或いは自らの倫理的・文化的人間としての視座の確立を目指す科目です。

② 「自然の仕組み」

「自然の仕組み」の分野では、自然の仕組みへの理解を深めることで、現代社会が抱える諸課題を把握することが目的となる科目です。

3. 学士力発展科目 (6単位～)

「導入科目」、「課題発見科目」で身につけた知識・スキル及び態度・志向性を発展させ幅広い知識と多様な経験を通して、主体的かつ総合的に学ぶ素地を養うことを目的とする科目群です。以下の系列から構成されます。

①地域・学際系 ②自然科学系 ③外国語系

4. 基礎教育科目の履修方法について

基礎教育科目は、次の一覧表及び後に掲げる表により指定された単位数を履修します。

表1 基礎教育科目一覧表

区分	科目群		教育学部		医学部		工学部	農学部	地域資源 創成学部
			小中一貫教育コース 教職実践基礎コース 発達支援教育コース 子ども理解専攻	発達支援教育コース 特別支援教育専攻	医学科	看護学科			
導入科目	大学教育入門セミナー		2	2	2	2	2	2	2
	情報・数量スキル		2	2	2	2	2	2	2
	外国語 コミュニケ ーション	英語	8	8	8	8	8	8	8
		初修外国語	4	4	2	2	2	2	2
	保健体育		2	2	—	1	—	—	—
	専門基礎		4	2	8	2	4	2	8
	小計		22	20	22	17	18	16	22
課題発見科目	専門教育入門セミナー		2	2	2	2	2	2	2
	環境と生命		2	2	2	2	2	2	2
	現代社会 の課題	社会と人間	2	2	2	2	2	2	2
		自然の仕組み							
小計		6	6	6	6	6	6	6	
学士力発展科目	地域・学際系		②注1	②注1	②注2	②注3	⑥注4	⑥注5	
	自然科学系					②注3			
	外国語系					④注2			
	小計		8	10	8	6	14	14	8
基礎教育科目単位数合計			36	36	36	29	38	36	36

※学士力発展科目の○数字は、必ずその区分において所要単位数を履修する。ただし、学部、学科によっては科目を指定している場合があるので注意すること。区分指定がある場合、学士力発展科目の小計単位数から○数字の単位数を引いた残りの単位数を任意の区分から履修する。

注1. 教育学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から「日本国憲法」を履修する。

注2. 医学科は、学士力発展科目「地域・学際系」から2単位、「外国語系」において、英語4単位（コミュニケーション英語 Mc1, Mc2）を履修する。

注3. 看護学科は、学士力発展科目「地域・学際系」から「家族社会学入門」、「自然科学系」から「統計学入門」及び「外国語系」から「医療英語（ENP B I）」を履修する。

注4. 工学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から6単位を履修する。また、「外国語系」の4単位は英語（英語 T3、英語 T4(技術英語)）を履修する。ただし、環境応用化学科は「外国語系」を2単位とし、英語（英語 T3）を履修する。

注5. 農学部は、学士力発展科目「地域・学際系」から6単位、「外国語系」の4単位は英語（英語 A3(学術英語基礎)、英語 A4(専門コミュニケーション英語)）を履修する。

注6. 地域資源創成学部は、学士力発展科目「外国語系」から英語4単位（ビジネス英語 I-1、ビジネス英語 I-2）を履修する。残りの4単位は、任意の区分から履修するが地域・学際系科目に履修できない科目があるので、別途、学部で配布されるガイダンス資料で確認すること。

(1) 「大学教育入門セミナー」

大学教育入門セミナーは、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(2) 「情報・数量スキル」

情報・数量スキルは、1年次の前学期に開講されます。授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、授業時間割で確認、または所属学部の指示に従って受講してください。

(3) 「英語」

次の表に掲げる授業科目から、クラス区分の指定により、1年次前学期に2科目4単位、1年次後学期に2科目4単位、合計8単位を履修します。

ただし、医学部(医学科)は、1・2年次前・後学期でそれぞれ1科目2単位、合計8単位を履修します。

表2 英語の授業科目と認定単位

学部区分		1年次前学期		1年次後学期	
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部		英語 Ea1	2	英語 Ea2	2
		英語 Eb1	2	英語 Eb2	2
医学部	医学科	英語 Ma1	2	英語 Ma2	2
	看護学科	英語 Na1	2	英語 Na2	2
工学部		英語 Nb1	2	英語 Nb2	2
		英語 Ta1	2	英語 Ta2	2
農学部		英語 Tb1	2	英語 Tb2	2
		英語 Aa1	2	英語 Aa2	2
地域資源創成学部		英語 Ab1	2	英語 Ab2	2
		英語 Ra1	2	英語 Ra2	2
		英語 Rb1	2	英語 Rb2	2
		2年次前学期		2年次後学期	
医学部	医学科	英語 Mb1	2	英語 Mb2	2

注 英語の再受講に関する手続きについては、ホームページあるいは掲示板に別途掲載します。

(4) 「初修外国語」

ドイツ語、フランス語、中国語又は韓国語から1外国語を選択した上で、次の表に掲げる授業科目から学部区分の指定により、1年次前学期で1科目2単位を履修します。

ただし、教育学部は、1年次前・後学期でそれぞれ1科目2単位、合計4単位を履修します。

表3 ドイツ語・フランス語・中国語及び韓国語の授業科目と認定単位

学部区分	学期	1年次							
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部	前	ドイツ語E1	2	フランス語E1	2	中国語E1	2	韓国語E1	2
	後	ドイツ語E2	2	フランス語E2	2	中国語E2	2	韓国語E2	2
医学部	医学科	ドイツ語M	2	フランス語M	2	中国語M	2	韓国語M	2
	看護学科	ドイツ語N	2	フランス語N	2	中国語N	2	韓国語N	2
工学部	前	ドイツ語T	2	フランス語T	2	中国語T	2	韓国語T	2
農学部	前	ドイツ語A	2	フランス語A	2	中国語A	2	韓国語A	2
地域資源創成学部	前	ドイツ語R	2	フランス語R	2	中国語R	2	韓国語R	2

注 再受講に関する手続きについては、ホームページあるいは掲示板に別途掲載します。

『英語の認定』

① 英検1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で730点以上、またはTOEFL試験(iBT)で79点以上を取得した場合には、申請により本学の成績に点数化した上で、「英語Da」4単位、「英語Db」4単位として認め、各学部毎(医学部は除く)に該当する外国語科目(「英語」:Ea1+Eb1+Ea2+Eb2; Ta1+Tb1+Ta2+Tb2; Aa1+Ab1+Aa2+Ab2; Ra1+Rb1+Ra2+Rb2)の単位に充てます。

また、英検準1級に合格した場合、あるいはTOEIC試験で650~729点、またはTOEFL試験(iBT)で70~78点を取得した場合には、本学の成績に点数化した上で、「英語Da」4単位として認め、該当する外国語科目(「英語」:Ea1+Ea2; Ta1+Ta2; Aa1+Aa2; Ra1+Ra2)の単位に充てます。なお、その他の外国語科目(「英語」:Eb1+Eb2; Tb1+Tb2; Ab1+Ab2; Rb1+Rb2)の修得が必要です。

ただし、単位の認定を申請する場合の申請期間は、前学期が4月4日から4月15日まで、後学期が9月20日から9月30日までとします。

② 上記の単位認定を申請する場合は、受験した検定試験等の試験結果の証明書を所属する学部の教務・学生支援係に提出してください。

表4 英語の検定試験等による単位の認定

学部区分	対象とする学修		認定科目	認定単位	該当科目「英語」
教育学部	実用英語技能検定(英検)	1級	英語Da	4	Ea1+Eb1+Ea2+Eb2 Ta1+Tb1+Ta2+Tb2
	TOEIC試験	730点以上			
工学部	TOEFL試験(iBT)	79点以上	英語Db	4	Aa1+Ab1+Aa2+Ab2 Ra1+Rb1+Ra2+Rb2
農学部	実用英語技能検定(英検)	準1級	英語Da	4	Ea1+Ea2 Ta1+Ta2 Aa1+Aa2 Ra1+Ra2
	TOEIC試験	650点~729点			
地域資源創成学部	TOEFL試験(iBT)	70点~78点			

(5) 「保健体育」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

表5 「保健体育」の開講コースと履修の学部区分

学部区分	1年次前学期		1年次後学期	
	授業科目(コース)	認定単位	授業科目(コース)	認定単位
教育学部	スポーツ科学I	1	スポーツ科学II	1
医学部看護学科	スポーツ科学	1		

(6) 「専門基礎」

次の表に掲げる授業科目から、学部区分の指定により履修します。

表6 「専門基礎」の開講科目と履修の学部区分

学部区分		1年次前学期		1年次後学期		2年次前学期		2年次後学期	
		授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部	小中一貫教育コース 教職実践基礎コース 発達支援教育コース 子ども理解専攻					特別支援教育入門	2	教職キャリア教育	2
	発達支援教育コース 特別支援教育専攻								
医学部	医学科	医療社会史	2	有機化学 統計学	2 2	医学実験動物学	2		
	看護学科	生命を知る	2						
工学部		物理科学 数学の考え方	2 2						
農学部		統計学基礎	2						
地域資源創成学部		コミュニケーション概論 数学基礎	2 2	統計学基礎	2	社会調査法	2		

注 授業時間及びクラス編成は各学部、学科ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(7) 「専門教育入門セミナー」

専門教育入門セミナーは、授業時間及びクラス編成は各学部、各学科・課程ごとに決定されますので、所属学部の指示に従って受講してください。

(8) 「環境と生命」

次の表に掲げる授業科目を、学部区分の指定年次に履修します。

表7 「環境と生命」の授業科目と履修の学部区分

学部区分	1年次前学期		2年次前学期	
	授業科目	認定単位	授業科目	認定単位
教育学部			環境と生命	2
医学部	環境と生命	2		
工学部			環境と生命	2
農学部			環境と生命	2
地域資源創成学部			環境と生命	2

注 クラス編成等は掲示にて発表します。

(9) 「現代社会の課題」

次の表に掲げる授業科目から、履修します。

各学部の学生は、「社会と人間」または「自然の仕組み」から1科目（2単位）を選択履修します。

選択に関する手続きについては、ホームページあるいは掲示板に別途掲載します。

表8 「現代社会の課題」の授業科目と履修の学部区分

注 次の表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

学部区分	1年次後学期		
	分野	授業科目	認定単位
教育学部	社会と人間	人間の心と行動	2
		教育と人間	2
		美術と文化～美術鑑賞から異文化理解へ～	2
		音楽と人間	2
		暮らしを見つめる	2
		風土・地域と人間	2
		現代社会と歴史(1)～近現代日本とアジア(外交と戦争)～	2
		現代社会と歴史(2)～ヨーロッパと日本、その歴史と文化～	2
		中華世界理解基礎	2
		グローバル・コミュニケーション	2
		現代社会と子供・青年	2
		現代社会と法	2
		現代社会とコミュニケーションーひととひとをつなぐもの	2
		現代社会と経済	2
		経済の基礎と応用～時事問題にアプローチ～	2
		大学と学生	2
医学部	社会と人間	「私」のキャリアとライフデザイン	2
		障がい者支援入門	2
工学部	社会と人間	国際協力入門～世界を舞台に活躍する～	2
		人口減少社会における公民連携 (ppp) のまちづくり	2
		地域学入門 I A～地域がキャンパス～	2
		地域学入門 I B～地域がキャンパス～	2
農学部	社会と人間	生物科学	2
		統計データによる地域課題分析	2
		自然科学の考え方	2
		物質の科学	2
		自然現象と工学	2
地域資源創成学部	自然の仕組み		

※上表の科目名は変更される場合があります。

(10) 「学士力発展科目」

次の表に掲げる開講科目から、原則として2年次（医学部の学生は1年次から履修可能、また、工学部、農学部の学生は、①印の付いている科目を4単位（2科目）に限り1年次から履修可能）の前学期及び後学期に各学部・学科（課程）が定める単位数以上を履修します。選択の便宜のために地域・学際系、自然科学系及び外国語系に区分して表示されていますが、各学部で指定されている単位以外は、系の区分に関わりなく自由に選択できます。本科目群は教養をより一層深め・広げることを目指すために設けられており各科目のねらいを参考にして計画的に履修するようにしてください。各科目の詳細内容はシラバスを参照してください。

また、新たに追加された授業科目が開講される場合は、それらも選択することができます。

表9 学士力発展科目

注 次の表に掲げる授業科目は、年度により変更されることがあります。開講科目については、当該年度の授業時間割及びシラバスを参照してください。

系	前学期開講科目	認定 単位	後学期開講科目	認定 単位
地域・学際系	博物館概論	2	科学の社会学	2
	①♣産業と教育	2	①ヘルスサイエンス	2
	☆家族社会学入門	2	①環境と地域社会	2
	生涯学習論	2	①宮崎県の経済と地域の活性化	2
	地域農業とフードビジネス	2	人間と自我	2
	①身のまわりの生活論	2	①人間と愛へのまなざしーフランス文学に学ぶー	2
	①宮崎の地質と自然景観	2	現代社会と共生	2
	ベンチャービジネス入門	2	①中国古典小説概論	2
	①△日本国憲法	2	①△日本国憲法	2
	①△日本国憲法(集中)	2	現代社会を読み解く	2
	生と死の倫理学	2	「人生の各ステージにおける学び」と博物館	2
	①地域文化論	2	日本の自然と災害	2
	①アフロアメリカの歴史と音楽	2	①現代社会と政治	2
	①♣国際化入門	2	①宮崎の産業と産学・地域連携	2
	魚・家畜・草の文化論	2	①南アフリカ概論	2
	日本の自然と災害	2	①アフロアメリカの歴史と音楽	2
	保健医療社会学	2	地域デザイン概論Ⅱ(3年次以上受講可)	2
	①デザイン学入門	2	①現代ドイツへの招待ー多面体としてみる異文化社会ー	2
	①現代社会と政治	2	生涯スポーツ実践Ⅲ	1
	①♣地域社会と税・財政	2	生涯スポーツ実践Ⅳ	1
	①南アフリカ概論	2	●地域産業入門(集中)(1年次から受講可)	2
	地域デザイン概論Ⅰ(3年次以上受講可)	2	●薬食同源学入門(集中)	2
	生涯スポーツ実践Ⅰ	1	●プレゼンテーションスキルアップ論(集中)	2
	生涯スポーツ実践Ⅱ	1	●健康な暮らしを科学する(集中)	2
	子どもとおとな(集中)	2	●エネルギー・ものづくり概論(集中)	2
	①アジア映画の変遷(集中)	2	●日向神話と神楽	2
	●ICTの地域活用(集中)	2	●国際プロジェクトの企画と実践(集中)	2
	●地域キャリアデザイン(集中)(1年次から受講可)	2	●実践的地域マネジメント論(集中)	2
	●亜熱帯薬食資源学(集中)	2	●「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門(集中)	2
	●地域で成長するICT企業(集中)	2	●地域起業・事業創造論(集中)	2
	●健幸予防医学(集中)	2	○宮崎の郷土と文化(コーディネート科目)	2
	●生活デザイン・ものづくり概論(集中)	2	博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」(集中)	2
	●地方自治と行政(集中)	2		
	●ベンチャー・プランニング論(集中)	2		
	地域学入門Ⅱ(集中)	2		
	①♣クリエイティブ左脳論	2		
	①ボランティアー地域のリーダーを育てるー(通年15回開講)			2
	▲異文化農村振興体験学習(通年集中)※1年次のみ受講可			2
	地域インターンシップ(通年集中)			1

自然科学系	化学と社会との関わり	2	①光と植物	2
	①線形代数入門 AEMNR	2	①染色体の行動と遺伝	2
	◇数学の思考法	2	①生命と病気	2
	①♣音・光で考える物理学入門	2	宇宙工学入門	2
	①♣生命科学研究入門	2	①☆統計学入門	2
	①♣科学技術と私たちの生活	2	Python プログラミング演習	2
	①微分積分学	2		
	①物理と情報	2		
①遺伝子操作入門	2			
外国語系	総合ドイツ語Ⅱ	2	◎総合ドイツ語Ⅰ	2
	実践ドイツ語Ⅱ	2	総合ドイツ語Ⅲ	2
	総合フランス語Ⅱ	2	◎実践ドイツ語Ⅰ	2
	実践フランス語Ⅱ	2	◎総合フランス語Ⅰ	2
	総合中国語Ⅱ	2	総合フランス語Ⅲ	2
	実践中国語Ⅱ	2	◎実践フランス語Ⅰ	2
	総合韓国語Ⅱ	2	◎総合中国語Ⅰ	2
	プロジェクト実践英語Ⅰ	2	総合中国語Ⅲ	2
	プロジェクト実践英語Ⅱ	2	◎実践中国語Ⅰ	2
	★コミュニケーション英語 Mc1	2	実践中国語Ⅲ	2
	☆医療英語 (ENP BⅠ)	2	◎総合韓国語Ⅰ	2
	◆英語 T3	2	総合韓国語Ⅲ	2
	■英語 A3 (学術英語基礎)	2	◎実践韓国語Ⅰ	2
	■英語 A4 (専門コミュニケーション英語)	2	プロジェクト実践英語Ⅲ	2
	□ビジネス英語Ⅰー1	2	プロジェクト実践英語Ⅳ	2
	日本語教育概論	2	★コミュニケーション英語 Mc2	2
			◆英語 T4 (技術英語)	2
			■英語 A3 (学術英語基礎)	2
			■英語 A4 (専門コミュニケーション英語)	2
			□ビジネス英語Ⅰー2	2
		▲中国語現地研修 (集中)	2	

注1. 適正なクラス規模にするため、科目によっては受講者数を調整する場合があります。

注2. 同一名称の科目は、二度受講しても単位は1科目分しか認められません。ただし、同一科目名でローマ数字表記が異なる科目はそれぞれ受講することができ、単位修得が認められます。

注3. 生涯スポーツ実践Ⅰ～Ⅳは、教育学部の学生はスポーツ科学Ⅰ及びⅡの2単位を修得後、履修するものとします。また、教員免許を取得しようとする工学部及び農学部の学生は、生涯スポーツ実践を2単位修得しなければなりません。ただし、本科目は同一学期1科目（1単位）のみの履修とします。

注4. ▲印受講については後記の「異文化農村振興体験学習」（通称：さくらロータス国際プログラム）、「中国語現地研修」を参照してください。

注5. △印の付いている科目（日本国憲法）は教育学部の必修科目ですので、前学期開講（集中講義含む）、後学期開講のいずれかを必ず履修してください。

注6. 教員免許を取得しようとする学生は、日本国憲法を修得しなければなりません。

注7. ★印の付いている科目は医学部医学科の必修科目ですので、必ず履修してください。

注8. ☆印の付いている科目は医学部看護学科の必修科目ですので、必ず履修してください。

注9. ◆印の付いている科目は工学部の必修科目ですので、必ず履修してください。なお、工学部環境応用化学科は、英語T3のみが必修科目です。

- 注 10. ■印の付いている科目は農学部の必修科目ですので、必ず履修してください。英語 A3（学術英語基礎）及び英語 A4（専門コミュニケーション英語）を前学期、後学期 1 科目ずつ履修することになります。
- 注 11. ◇印の付いている科目は農学部応用生物科学科の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注 12. □印の付いている科目は地域資源創成学部の必修科目ですので、必ず履修してください。
- 注 13. ◎印の付いている科目は初修外国語としてその言語を受講していれば 1 年次から履修できます。詳細については各科目のシラバスを参照ください。
- 注 14. ①印の付いている科目は、工学部、農学部の学生に限り 4 単位（2 科目）まで 1 年次から履修することができます。
- 注 15. ●印の付いている科目は、みやざきCOC+「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に関する科目です。これらは、1 年次から履修できる「地域キャリアデザイン」「地域産業入門」のほか、2 年次から履修できる「食品」「ICT」「医療・福祉」「エネルギー・ものづくり」「国際・観光」「公務員・教員」「起業」の産業に関する科目であり、主に「授業配信システム」により、インターネットを通じてパソコンなどで受講することになります。所定の科目を履修・単位修得することで「産業人材ユニット修了証」が授与されます。履修方法などについては別途案内（掲示など）しますので、確認してください。
- 注 16. ○印の付いている科目は高等教育コンソーシアム宮崎の単位互換科目です。コーディネート科目の開講については掲示等で周知します。
- 注 17. ♣印の付いている科目は、平成 30 年度クォーター制で実施される科目です。

▲「異文化農村振興体験学習」（通称：さくらロータス国際プログラム）、「中国語現地研修」について

海外の大学との交流発展及び学生の異文化体験の重要性に鑑み、本学と大学間又は学部間交流協定を締結している大学とのプログラム（「異文化農村振興体験学習」、「中国語現地研修」）に参加した学生に対し、学士力発展科目として 2 単位を認定します。受講資格等については、シラバスで確認してください。

「異文化農村振興体験学習」：ベトナム・ハノイ市及びベトナム農村部を 2018 年 8 月頃に 10 日程度（現地滞在 8 日、移動 2～3 日）訪問し、同世代のベトナム人大学生とともにアジアの農村振興について共同学習・交流する機会をもちます。

（現地滞在中は、宮崎大学の学生 11 名とベトナム国家農業大学の学生 11 名の合計 22 名が行動を共にします。異文化の学生と対等な立場で協働する中で、互いの意見・考えを理解し、自らの考えを伝えるコミュニケーション力を養います。また、異文化の文脈を理解し、アジアの農村振興の課題について主体的に考えることができるようになることを目指します。

「中国語現地研修」：中国語の必修科目（1 年生前期）を履修済みの学生が、中国語圏の大学に 10 日間ほど滞在し、中国語や中国文化の授業を受ける科目です。滞在中には受け入れ先大学の学生との交流も行われます。本科目は、履修者の個々の語学力を高めると同時に、それぞれが滞在先の社会や文化についてより深く理解することを目的とします。なお、実施時期はおおむね 2 月下旬から 3 月上旬で、滞在先としては本学の学術交流協定校である中国南京農業大学を予定しています。

本科目の実施は、交流協定大学の合意が必要であり、必ずしも毎年度に開講できるものではありません。

●みやざきCOC+「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」について

平成 27 年度に採択された事業で、平成 28 年に本学など宮崎県内の高等教育機関（5 機関）が、相互の協力・交流・連携並びに地域産業を知り、複眼的視点から地域課題を捉える人材を育成することを目的として、単位互換の協定を締結しました。

○「高等教育コンソーシアム宮崎」単位互換について

本学は、平成 18 年 12 月に、宮崎県内の高等教育機関（11 機関）と、相互の協力・交流・連携並びに各大学の特色ある授業科目の開放によって、教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的として、単位互換の協定を締結しました。

この協定により、平成 19 年度から本学学生が単位互換科目（各大学等の教養科目とコーディネート科目：参加大学が協力して開講する科目）を履修し、修得した場合には、学士力発展科目（6 単位が限度）として認定します。単位互換科目については掲示等でお知らせします。

地域活性化・学生マイスター資格の取得について

地域活性化・学生マイスターは、本学の地域活性化・学生マイスター養成プログラムを履修し、グローバルな視点から地域の課題解決や政策を企画立案するために必要な基本的な能力を修得した者に付与される本学独自の資格です。修得する単位数に応じて、初級と上級の 2 種があります。

この資格は、別に定める基礎教育科目および専門科目を履修の上、指定の申請書および書類の提出による交付申請を行うことで卒業時に資格証の交付を受けることができます。

詳しい履修プログラムは、各所属学部のキャンパスガイドに掲載している本資格取得についてのページ、もしくはみやだいCOC推進室のホームページ(<http://www.miyazaki-u.ac.jp/miyazaki-u/area/meister>)を参照してください。

放送大学との単位互換について

本学は、平成10年4月に放送大学と単位互換の協定を締結しました。この協定により、本学学生が、放送大学が開講する単位互換科目を履修し単位を修得した場合には、学士力発展科目として認定します。ただし、単位互換科目の履修は有料です。履修を希望する学生は、基礎教育支援課まで申し出てください。放送大学の単位互換科目は「初歩のスペイン語」です。

5. 基礎教育の受講及び試験に関する手続き一覧表

学期	項目	提出又は登録先	願(届)提出(登録)期日等	摘要
前学期	受講科目登録	基礎教育支援課 又はWeb上で	定める期日まで	受講する授業科目(集中講義を含む)のすべてを登録すること。
	特別欠席願	所属学部 教務担当係	事由発生後速やかに	特別欠席が許可され、欠席の補填措置があった場合、欠席回数に加算されない。
	定期試験*		7月下旬	クォーター制(第1期)科目の場合は6月上旬
	追試験届	基礎教育支援課	定期試験期間終了後 10日以内	特別欠席を許可された者について、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施
	定期試験・追試験 成績発表		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する
	再試験 (前学期のみで終了するもの)		9月中旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ
	再試験成績発表 (前学期のみで終了するもの)		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する
後学期	受講科目登録	基礎教育支援課 又はWeb上で	定める期日まで	前学期に同じ
	特別欠席願	所属学部 教務担当係	事由発生後速やかに	〃
	定期試験*		2月上旬	クォーター制(第3期)科目の場合は11月下旬
	追試験届	基礎教育支援課	定期試験期間終了後 10日以内	前学期に同じ
	定期試験・追試験 成績発表		試験終了後 1週間以内	Web上で担当教員が発表する
	再試験		3月中旬	受験できるのは、合否発表で「保留」となった者のみ
	再試験成績発表		試験終了後 1週間以内 (卒業年次は速やかに)	Web上で担当教員が発表する

*定期試験期間中に特別欠席に該当する理由が発生した場合は、直ちに基礎教育支援課へ連絡 (tel:0985-58-7133) すること。

1. 平成30年度学年暦に基づきますが、変更されることもありますので掲示等に注意してください。

6. カリキュラム・マトリックス

カリキュラム・マトリックスとは、カリキュラム（授業科目情報の一覧）に対してディプロマ・ポリシーで掲げる育成する能力と個々の授業科目の対応関係を示したものです。

区分	科目群	ディプロマポリシー										
		人間性・社会性・国際性			主体的に学ぶ力	コミュニケーション能力		課題発見・解決力		知識・技能		
		倫理観	チームワーク	多文化・異文化理解	主体的に学ぶ力	言語リテラシー	他者理解・自己表現力	情報リテラシー	問題解決力	文化・社会・自然・地域の理解	専門知識・技能	
導入科目	大学教育入門セミナー	○	○		◎		○		○+	+		
	情報・数量スキル	○						◎	+	+		
	外国語コミュニケーション	英語 a1, a2			○		◎					
		英語 b1			○		◎		(+)	(+)		
		英語 b2			○		◎		+	+		
		初修外国語			◎		○					
	保健体育		◎		○		○					
専門基礎										◎		
課題発見科目	専門教育入門セミナー	◎			○		○		○+	+	◎	
	環境と生命		○		○		○		◎+	○+		
	現代社会の課題	社会と人間		○		○	○		◎(+)	○(+)		
	現代社会の課題	自然の仕組み		○		○	○		◎	○		
学士力発展科目	地域・学際系			○			○		(+)	◎(+)		
	自然科学系									◎		
	外国語系			○		◎						

＋：COC関連科目

()：すべての科目が対象ではありません。

* 学部・学科等により一部異なる場合があります。

7. 関係諸規程等

【1】宮崎大学基礎教育科目履修規程

平成16年4月1日
制 定

改正 平成22年9月22日 平成26年2月27日
平成28年10月27日 平成30年3月15日

(趣旨)

第1条 この規程は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第15条第1項の規定に基づき、基礎教育科目で開設する授業科目、単位数及び履修方法等について定めるものとする。

(科目区分、授業科目及び単位数)

第2条 基礎教育科目は、導入科目、課題発見科目及び学士力発展科目に区分する。

なお、導入科目は大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション、保健体育及び専門基礎の5科目群で、課題発見科目は専門教育入門セミナー、環境と生命及び現代社会の課題の3科目群で構成する。

2 開設される授業科目及び単位数は別に定める。

3 前2項の規定にかかわらず、グローバル人材育成学部教育プログラムにより入学する者に適用される基礎教育科目の科目区分、授業科目及び単位数は別に定める。

(履修方法)

第3条 学生は、基礎教育科目で開設される授業科目を基礎教育科目一覧表にしたがって、各学部・学科(課程)が定める単位数以上を修得しなければならない。

(単位の計算方法)

第4条 基礎教育科目で開設する授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とし、授業の方法に応じ次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技等については、30時間をもって1単位とする。

(受講年次、受講手続及び試験)

第5条 基礎教育科目の各科目群で開設される授業科目の受講年次、受講手続及び試験については別に定める。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学に在学する者（以下「在学者」という。）並びに在学者の属する年次に再入学等する者については、この規程の規定にかかわらず、旧宮崎大学及び旧宮崎医科大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成26年3月31日に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に再入学、編入学又は転入学（以下「再入学等」という。）する者並びに平成26年度に医学部看護学科に入学する者（以下「入学者」という。）及び入学者の属する年次に再入学等する者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成28年10月27日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

【2】宮崎大学基礎教育科目の受講及び成績評価に関する細則

〔平成16年4月1日
制 定〕

改正 平成22年9月30日 平成24年3月29日
平成26年3月31日 平成29年3月31日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学基礎教育科目履修規程（以下「履修規程」という。）第5条の規定に基づき、基礎教育科目の受講手続及び試験等に関し、必要な事項を定める。

(受講科目登録)

第2条 学生は、履修規程に基づき基礎教育科目で開設される授業科目を受講するときは、受講科目を所定の手続により別に定める期日までに登録しなければならない。

(成績評価を受ける資格)

第3条 各授業科目においては、所定時間数の75%以上出席しなければ成績評価を受ける資格を得ることはできない。

2 各授業科目の受講に遅刻又は早退があるときは、3回の遅刻又は早退をもって1回の欠席とみなす。

(特別欠席の取扱い)

第4条 次に掲げる理由により欠席した者は、速やかに、所定の特別欠席願を在籍学部の教務・学生支援係、医学部にあつては学生支援課に提出し、欠席する授業の担当者に特別欠席を願い出ることができる。原則として、授業担当者は欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌引

父母及び配偶者にあつては7日、子にあつては5日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては3日とする。

(2) 天災

必要と認める日・時間

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき。

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、4週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき。

派遣依頼の期間又は承認した期間。ただし、回数及び期間については別に定める。

(5) その他やむを得ない事情と基礎教育委員会が認めたとき。

(定期試験)

第5条 定期試験は、前学期及び後学期に開講した授業科目について、公示のうえ実施する。

(追試験)

第6条 受験資格を有し、第4条に掲げる理由により定期試験を受験できなかった者は、追試験を1回に限り受験することができる。

2 追試験は、定期試験期間終了後30日以内に担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、所定の追試験届を定期試験期間終了後10日以内に学生支援部基礎教育支援課に提出しなければならない。

(成績評価の合否発表等)

第7条 成績評価は、各授業科目で定める評価基準に基づき、定期試験又は追試験の成績等で行われる。

2 成績評価の合否発表は、合格（60点以上）、保留（59点から30点まで）、不合格（29点以下）の3段階で行い、合否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、試験を実施しない場合は試験期間の開始日から1週間以内に在籍学部に掲示する。

(再評価)

第8条 成績評価で保留となった者は、再評価を1回に限り受けることができる。

2 再評価は、再試験又は他の評価方法により行う。

3 再試験は、前学期を9月中旬、後学期を3月上旬に公示のうえ実施する。

4 再評価の合否発表は、合格及び不合格の2段階で行い、合否の結果は、当該授業科目の試験終了後1週間以内、再試験を実施しない場合は再試験期間の開始日から1週間以内に在籍学部に掲示する。

5 再評価は60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

(授業科目担当教員不在の場合)

第9条 授業科目担当教員が転任又は退職等で不在となったときの成績評価及び再評価は、基礎教育分野別部会及び基礎教育委員会との協議により実施する。

(再受講)

第10条 成績評価及び再評価で不合格になった者は、第2条に定める受講手続きを行い、再受講することができる。

(成績評価)

第11条 成績評価は、90点以上を秀、89点から80点までを優、79点から70点までを良、69点から60点までを可、59点以下を不可の5種の評語で評価し、秀、優、良、可を合格とする。

(不正行為)

第12条 不正行為をした者は、学則により懲戒され、併せて当該学期の基礎教育科目の成績評価は、すべて無効とする。

2 不正行為の事実確認は、別紙様式により行うものとする。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行する。ただし、改正後の題名、第1条、第2条及び第12条の規定は、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

【3】基礎教育科目の定期試験等の受験心得

平成16年4月1日
共通教育協議会決定

改正 平成26年4月1日

基礎教育科目の受講及び成績評価に関する内規に定める定期試験、追試験及び再試験における学生の受験時の心得について、下記のとおり定める。なお、科目によって別に指示がある場合にはその指示に従うものとする。

1 試験室への入室について

試験室には、前の試験の監督者が退室するまでは入室できない。

2 問題・答案用紙について

- (1) 学籍番号、入学年度、学部名、学科・課程名及び氏名を必ず記入すること。
- (2) 答案用紙は、退室時に本人が持参のうえ監督者に提出するものとする。
- (3) 試験時間内に問題を室外に持ち出すことを厳禁する。

3 遅刻及び退室について

- (1) 遅刻： 試験開始時刻から20分を経過した場合は、入室は認められない。
- (2) 退出： 試験開始時刻から30分を経過しなければ退室は認められない。

4 学生証の提示について

学生証は、受験中必ず机の上に置いておくこと。不所持の学生は仮受験票の発行を監督者に申し出ること。

5 用具等の持込について

机上には、筆記用具及び許可されたもの以外（携帯電話、PHS等を含む）を置いてはならない。

6 用具等の貸借について

試験中の用具等の貸借は、原則として許可しない。

7 その他

カンニング等の不正行為（本心得の禁止事項及び科目ごとの指示を含む）をした者は、学則により停学等の懲戒に処せられ、併せて当該学期の基礎教育科目の試験及びその他レポート等の審査の成績評価は、すべて無効となる。

附 則

この申合せは、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この申合せは、平成24年6月20日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この申合せは、平成26年4月1日から施行する。

【4】基礎教育科目の成績評価に対する申し立てに関する申合わせ

〔平成 27 年 1 月 27 日
制 定〕

改正 平成 28 年 4 月 1 日
改正 平成 29 年 3 月 10 日

- 1 成績評価に対する申し立てに関して、必要な事項を定める。
- 2 成績評価に対して異議がある場合、その成績評価を受けた者に限り原則として当該学期内に基礎教育支援課にて別紙により基礎教育部長宛に申し立てをすることができる。
- 3 成績評価に対する申し立てを基礎教育部長が受けた場合、基礎教育部長は適宜、学生及び担当教員から事情を聴取し、その結果を踏まえて基礎教育運営会議において協議し、対処するものとする。
- 4 前項において、対処できないと基礎教育運営会議で判断したときは、基礎教育委員会が対処するものとする。
- 5 本申合わせは、学生が直接担当教員に申し立てることを妨げるものではない。

附 則

この申合わせは平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合わせは平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

別紙

成績評価に対する申し立て(基礎教育)

申し立て日	平成 年 月 日
申し立て者 (所属・学籍番号)	(学籍番号)
授業科目名 (授業担当教員)	()
(申し立ての内容)	

【5】宮崎大学における外国人留学生の履修方法の特例に関する細則

平成16年4月1日
制 定

改正 平成19年6月8日 平成22年9月30日
平成26年3月31日 平成28年3月17日

(趣旨)

第1条 この細則は、宮崎大学学務規則（以下「規則」という。）第47条第3項の規定に基づき、宮崎大学に入学した外国人留学生（以下「留学生」という。）の授業科目及び履修方法について定めるものとする。

(日本語科目及び日本事情に関する科目の授業科目及び単位数)

第2条 日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という。）として開設する授業科目及び単位数は、別に定める。

2 授業計画上やむを得ない場合は、基礎教育委員会の議を経て、授業科目及び単位数の一部を変更することがある。

(短期集中プログラム)

第3条 短期集中プログラムにおいて、授業科目と単位数については、別に定める。

(単位の取扱い)

第4条 学部留学生が日本語科目等に関する授業科目を履修し単位を修得したときは、基礎教育委員会の議を経て基礎教育科目の単位の読み替えることができる。

附 則

- 1 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 規則附則第2項の規定に基づき、平成16年3月31日に旧宮崎大学に在学する者については、本細則の規定にかかわらず、なお旧宮崎大学の規程等の定めるところによる。

附 則

この細則は、平成19年6月8日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年10月1日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に在学する者については、なお従前の例による。

【6】宮崎大学学部留学生に対する基礎教育科目単位に関する取扱い

平成 30 年 3 月 15 日
基礎教育委員会決定

(趣旨)

第1 この取扱いは、宮崎大学における外国人留学生の履修方法の特例に関する細則第4条に関し、宮崎大学外国人留学生規程第2条第1号に規定する学部留学生のうち、グローバル人材育成学部教育プログラムで入学した者を除く学部学生（以下「学部留学生」という。）に係る基礎教育科目の単位の取扱いに関し、必要な事項を下記のとおり定める。

(単位の上限)

第2 学部留学生が、日本語科目等（入門、初級日本語、初中級日本語及び中級日本語を除く。）に関する授業科目を履修し単位を修得したときは、次の各号に掲げる外国語コミュニケーション及び学士力発展科目の単位に読み替えることができる。なお、具体的な科目等については、各学部の履修指導に従うこととする。

- (1) 外国語コミュニケーション（英語及び初修外国語の2科目群）については12単位まで
- (2) 学士力発展科目については14単位まで

(読み替えの手続き)

第3 読み替えの手続きは、学部留学生の所属学部がとりまとめを行い、学部留学生ごとに基礎教育科目単位読み替え表（別紙様式）を作成し、基礎教育委員会へ提出するものとする。

- 2 基礎教育委員会では、前項により提出された読み替え表（別紙様式）に基づき、読み替えの決定を行うものとする。

附 則

この取扱いは、平成30年4月1日から実施し、平成28年度入学の学部留学生から適用する。

平成 30 年度日本語科目等の開講科目

レベル	科 目 名	単位数	日本語 能力試験
入門	入門日本語Ⅰ－A	2	
	入門日本語Ⅰ－B	2	
	入門日本語Ⅱ－A	2	
	入門日本語Ⅱ－B	2	
初級	初級日本語Ⅰ－A	2	N5
	初級日本語Ⅰ－B	2	
	初級日本語Ⅱ－A	2	
	初級日本語Ⅱ－B	2	
	初級日本語Ⅲ－A	2	
	初級日本語Ⅲ－B	2	
初中級	初中級日本語Ⅰ－A	2	N4
	初中級日本語Ⅰ－B	2	
	初中級日本語Ⅱ－A	2	
	初中級日本語Ⅱ－B	2	
	初中級日本語Ⅲ－A	2	
	初中級日本語Ⅲ－B	2	
中級	中級日本語Ⅰ－A	2	N3
	中級日本語Ⅰ－B	2	
	中級日本語Ⅱ－A	2	
	中級日本語Ⅱ－B	2	
* 中上級	中上級日本語Ⅰ－A	2	N2
	中上級日本語Ⅰ－B	2	
	中上級日本語Ⅱ－A	2	
	中上級日本語Ⅱ－B	2	
* 上級	上級日本語Ⅰ－A (作文)	2	N1
	上級日本語Ⅰ－B (作文)	2	
	上級日本語Ⅱ－A (メディア・リテラシー)	2	
	上級日本語Ⅱ－B (メディア・リテラシー)	2	
	上級日本語Ⅲ－A (語彙)	2	
	上級日本語Ⅲ－B (語彙)	2	
* 超上級	超上級日本語Ⅰ－A 論文 (読解と執筆)	2	
	超上級日本語Ⅰ－B 論文 (読解と執筆)	2	
* 中級以上	中級ビジネス日本語－A	2	原則、 中級日本語 修了者 以上
	中級ビジネス日本語－B	2	
	上級ビジネス日本語－A	2	
	上級ビジネス日本語－B	2	
	日本語地域インターンシップ A (集中)	2	
	日本語地域インターンシップ B (集中)	2	
	日本事情概論－A (各学部)	2	
	日本事情概論－B (各学部)	2	

* 学部留学生が読み替え可能な日本語科目等

- A:前学期 B:後学期
- 開講科目は年度によって変更になる可能性がある。

【7】外国語科目の単位認定の取扱い

平成 26 年 3 月 19 日
語学教育センター
運営委員会 決定

改正 平成 28 年 4 月 1 日

本学学務規則第 2 1 条の規定に基づき、外国語科目の単位認定の取扱いについて、下記のとおり定める。

記

1. 認定する科目名及び単位数等について

文部科学大臣が定める学修（以下「対象とする学修」という。）を、本学における授業科目の履修とみなして認定する科目及び単位は下表のとおりとし、対象とする学修を取得した場合は、本学の成績に点数化した上、基礎教育科目の該当する外国語科目の単位に充てるものとする。

ただし、平成 25 年度以前入学者に対する認定科目及び単位は、下表にかかわらず入学年度の学生便覧によるものとする。

学部区分	対象とする学修		認定科目	認定単位
教育学部	実用英語技能検定（英検） 1 級		英語 D a	4
	TOEIC 試験	730 点以上		
工学部	TOEFL 試験 (iBT)		英語 D b	4
農学部	実用英語技能検定（英検） 準 1 級		英語 D a	4
	TOEIC 試験	650 点～729 点		
地域資源創成学部	TOEFL 試験 (iBT)			
		70 点～78 点		

2. 単位認定の申請について

前項に定める対象とする学修を取得した者は、試験結果の証明書（入学以前・以後を問わない。）を添付の上、別紙により所属学部長に申請しなければならない。

なお、申請の流れについては、以下のとおりとする。

1. 認定申請書提出	学生 ⇒ 各学部長
2. 単位認定	教授会の議を経て、学部長が認定
3. 認定結果通知	学部長 ⇒ 基礎教育部長 学部長 ⇒ 学生（申請者）

3. 点数化の方法及び成績原簿等の表記例について

(1) 点数化の方法

・英語 D

区分	換算方法
英検 (準 1 級以上)	準 1 級 ⇒ 85 点 1 級 ⇒ 95 点
TOEIC (650 点以上)	満点 800 点を仮定し、本学の 100 点に換算して点数化する。 (例：650 点 ⇒ 81 点[優]；730 点 ⇒ 90 点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が 100 点以上になる場合は全て 100 点とする。
TOEFL (iBT70 点以上)	満点 87 点を仮定し、本学の 100 点に換算して点数化する。 (例：70 点 ⇒ 80 点[優]；79 点 ⇒ 90 点[秀]) ※小数点以下は切り捨て。また、換算結果が 100 点以上になる場合は全て 100 点とする。

(2)成績原簿等の表記例

- ・成績原簿 ⇒ 【80：認定（優）】；【90：認定（秀）】
- ・成績証明書 ⇒ 【認定（優）】；【認定（秀）】

附 則

- 1 この取扱いは、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この取扱いは、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前の教育文化学部入学者に対する認定科目及び単位は、入学年度の学生便覧によるものとする。
- 3 平成26年度及び平成27年度の教育文化学部入学者に対する認定科目及び単位等は、「1. 認定する科目名及び単位数等について」に定める表を適用するものとする。

(別 紙)

外国語科目の単位認定申請書

平成 年 月 日

学部長 殿

入学年度 平成 年度

学籍番号

学 部

学部

学科・課程

学科・課程

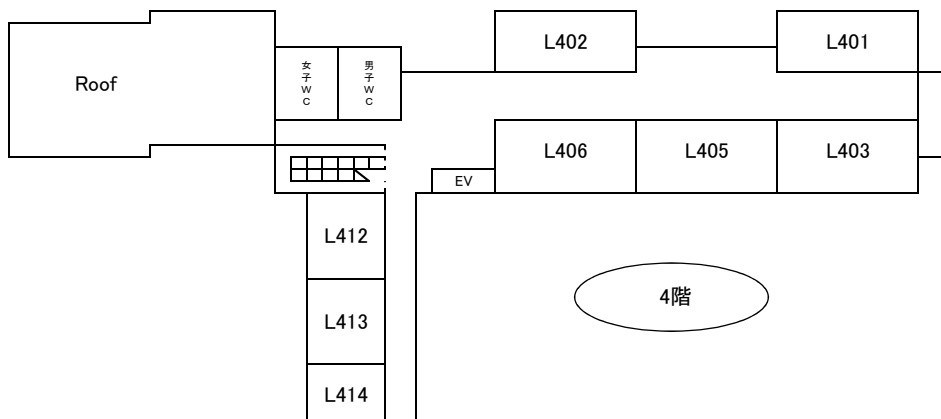
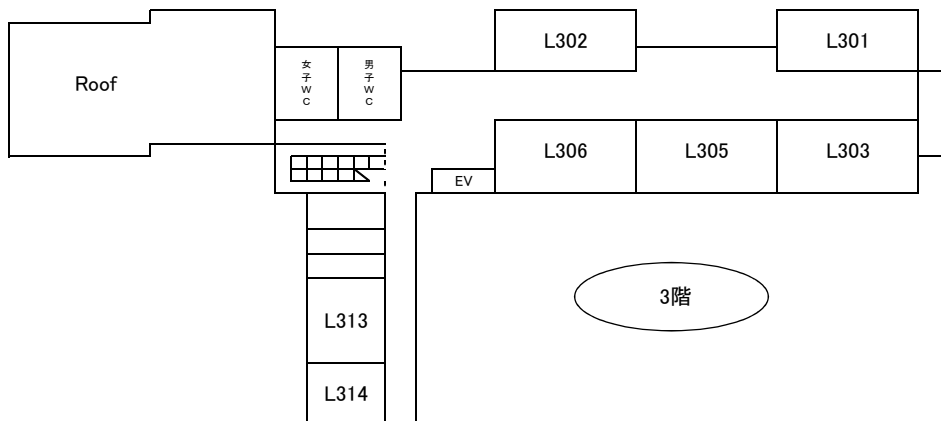
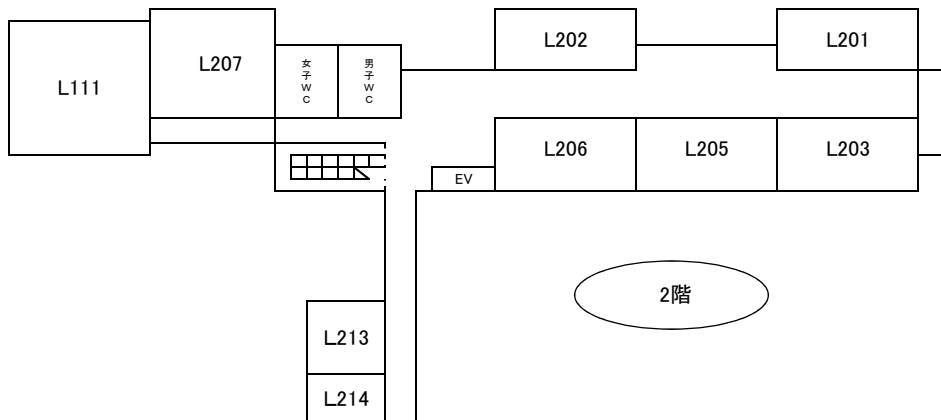
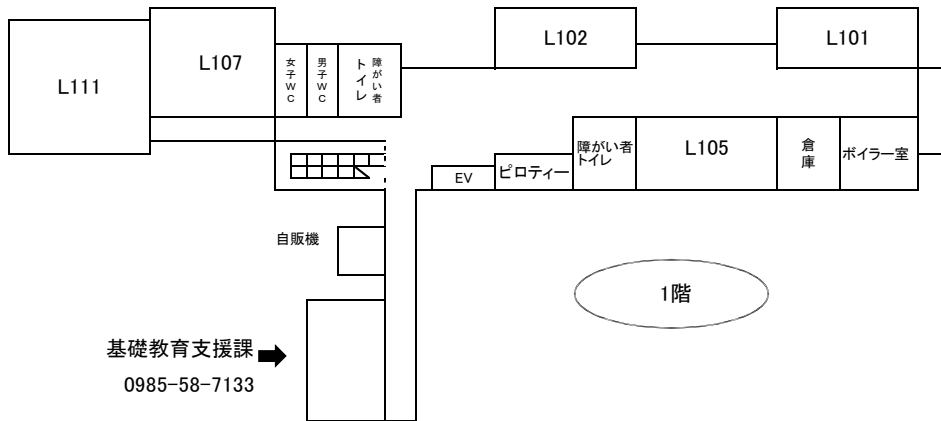
氏 名 (自署)

私は、別紙のとおり（英検・TOEIC・TOEFL 試験）において、本学の単位認定条件を満たす成績を取得しましたので、本学基礎教育科目の外国語科目 [英語 D] として認定していただきますよう申請いたします。

注1. 添付する別紙（証明書等）は原本を提出してください。

注2. () 内は、該当する箇所に○印を付してください。

8. 教育学部講義棟教室配置図



9. 基礎教育担当教員名簿

役 職	氏 名	所 属
基礎教育部長	秋山 博臣	教育学部 理科教育
基礎教育部副部長	飯田 雅人	工学部 工学基礎教育センター

※「現代社会の課題」、「学士力発展科目」及び「外国語科目」の担当教員を掲載

現代社会の課題

科目名	教員名	所 属
人間の心と行動	尾之上 高哉	教育学部
教育と人間	竹内 元	教育学部
美術と文化～美術鑑賞から異文化理解へ～	石川 千佳子	教育学部
音楽と人間	酒井 勇也	教育学部
暮らしを見つめる	伊波 富久美	教育学部
風土・地域と人間	中村 周作	教育学部
現代社会と歴史(1)～近現代日本とアジア(外交と戦争)～	関 周一	教育学部
現代社会と歴史(2)～ヨーロッパと日本、その歴史と文化～	中堀 博司	教育学部
中華世界理解基礎	藤井 久美子	語学教育センター
グローバル・コミュニケーション	金岡 保之	地域資源創成学部
現代社会と子供・青年	盛満 弥生	教育学部
現代社会と法	足立 文美恵	地域資源創成学部
現代社会とコミュニケーション ひととひとをつなぐもの	寺尾 智史	語学教育センター
現代社会と経済	金谷 義弘	教育学部
経済の基礎と応用～時事問題にアプローチ～	入谷 貴夫	地域資源創成学部
大学と学生	藤埜 智一	教育・学生支援センター
「私」のキャリアとライフデザイン	伊達 紫	理事(女性活躍・人材育成担当)
障がい者支援入門	楠元 和美	障がい学生支援室
国際協力入門～世界を舞台に活躍する～	鹿野 正雄/伊藤 健一	国際連携センター
人口減少社会における公民連携(ppp)のまちづくり	桑野 斉	地域資源創成学部
地域学入門Ⅰ(A)	高橋 利行	産学・地域連携センター
地域学入門Ⅰ(B)	高橋 利行	産学・地域連携センター
生物科学	西田 伸	教育学部
統計データによる地域課題分析	藤井 良宜	教育学部
自然科学の考え方	秋山 博臣/中林 健一/宇田津 徹朗	教育学部、農学部
物質の科学	松下 洋一	工学部
自然現象と工学	川末 紀功仁/穂高 一条/申 炳録/五十嵐 明則/松田 達郎	工学部

学士力発展科目

科目名	教員名	所 属
○地域・学際系		
博物館概論	石川 千佳子/宇田津 徹朗	教育学部、農学部
産業と教育	藤埜 智一	教育・学生支援センター

家族社会学入門	菊井 高雄	医学部
生涯学習論	高橋 利行	教育・学生支援センター
地域農業とフードビジネス	西 和盛/撫 年浩	地域資源創成学部
環境と地域社会	戸敷 浩介/芦田 裕介	地域資源創成学部
身のまわりの生活論	湯地 敏史/藤元 嘉安	教育学部
宮崎の地質と自然景観	山北 聡	教育学部
フィールド体験講座	西脇 亜也	農学部
ベンチャービジネス入門	丹生 晃隆/土屋 有	地域資源創成学部
日本国憲法 (前学期集中)	中川 義朗	非常勤講師
日本国憲法 (前、後学期)	渡邊 譽	非常勤講師
生と死の倫理学	柏葉 武秀	教育学部
地域文化論	中村 周作	教育学部
国際化入門	伊藤 健一	国際連携センター
魚・家畜・草の文化論	川島 知之、農学部教員	農学部
日本の自然と災害 (前・後学期)	大平 明夫	教育学部
保健医療社会学	菊井 高雄	医学部
デザイン学入門	宮木 健二	地域資源創成学部
現代社会と政治 (前・後学期)	小沼 新	非常勤講師
南アフリカ概論 (前・後学期)	玉田 吉行	語学教育センター
アフロアメリカの歴史と音楽 (前・後学期)	玉田 吉行	語学教育センター
生涯スポーツ実践Ⅰ	森崎 由理江/日高 正博	教育学部
生涯スポーツ実践Ⅱ	森崎 由理江	教育学部
生涯スポーツ実践Ⅲ	森崎 由理江/秦泉寺 尚	教育学部、非常勤講師
生涯スポーツ実践Ⅳ	秦泉寺 尚	非常勤講師
地域デザイン概論Ⅰ	高橋 利行/國武 久登/その他教員	産学・地域連携センター
地域デザイン概論Ⅱ	高橋 利行/國武 久登	産学・地域連携センター
子どもとおとな (集中)	竹内 元	教育学部
アジア映画の変遷 (集中)	酒井 正博	農学部
地域キャリアデザイン (集中)	國武 久登	産学・地域連携センター
亜熱帯食資源学 (集中)	甲斐 久博/國武 久登	みやざきCOC+地元定着推進室
地域で成長するICT企業 (集中)	土屋 有	みやざきCOC+地元定着推進室
健康予防医学 (集中)	江藤 敏治	みやざきCOC+地元定着推進室
生活デザイン・ものづくり概論 (集中)	高橋 明宏/杉本 弘文	みやざきCOC+地元定着推進室
国際プロジェクトの企画と実践 (集中)	井上 果子	みやざきCOC+地元定着推進室
地方自治と行政 (集中)	有馬 晋作	みやざきCOC+地元定着推進室
ベンチャー・プランニング論 (集中)	丹生 晃隆	みやざきCOC+地元定着推進室
科学の社会学	菊井 高雄	医学部
ヘルスサイエンス	武田 龍一郎/宮野 秀市/楠元 和美/その他教員	安全衛生保健センター
宮崎県の経済と地域の活性化	根岸 裕孝	地域資源創成学部
人間と自我	菊井 高雄	医学部
人間と愛へのまなざし—フランス文学に学ぶ—	吉田 好克/清水 まさ志	教育学部、語学教育センター
現代社会と共生	遠藤 宏美	教育学部
中国古典小説概論	上原 徳子	語学教育センター
「人生の各ステージにおける学び」と博物館	宇田津 徹朗	農学部
現代社会を読み解く	菊井 高雄	医学部
地域社会と税・財政	園 弘子	地域資源創成学部

クリエイティブ左脳論	田中 雄之	地域資源創成学部
宮崎の産業と産学・地域連携	小林 太一	産学・地域連携センター
現代ドイツへの招待ー多面体としてみる異文化社会ー	胡屋 武志	語学教育センター
地域産業入門 (集中)	出口 近士	みやざきCOC+地元定着推進室
薬食同源学入門 (集中)	榊原 啓之/甲斐 久博	みやざきCOC+地元定着推進室
ICTの地域活用 (集中)	金岡 保之	みやざきCOC+地元定着推進室
プレゼンテーションスキルアップ論 (集中)	吉井 千周	みやざきCOC+地元定着推進室
健康な暮らしを科学する (集中)	野間口 千香穂	みやざきCOC+地元定着推進室
エネルギー・ものづくり概論 (集中)	西岡 賢祐	みやざきCOC+地元定着推進室
日向神話と神楽 (集中)	大館 真晴	みやざきCOC+地元定着推進室
実践的地域マネジメント論 (集中)	金谷 義弘/その他教員	みやざきCOC+地元定着推進室
「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門 (集中)	中村 佳文/その他教員	みやざきCOC+地元定着推進室
地域起業・事業創造論 (集中)	土屋 有	みやざきCOC+地元定着推進室
ボランティアー地域のリーダーを育てるー (通年15回開講)	高橋 利行	教育・学生支援センター
異文化農村振興体験学習 (通年集中)	井上 果子	地域資源創成学部
博物館に学ぶ「モノの見方と見せ方」 (通年集中)	大泉 佳広	教育学部
地域学入門Ⅱ (前期集中)	高橋 利行/國武 久登	産学・地域連携センター
地域インターンシップ (通年集中)	高橋 利行/國武 久登	産学・地域連携センター
○自然科学系		
化学と社会との関わり	中林 健一	教育学部
線形代数入門 AEMNR	大桑 良彰	医学部
Python プログラミング演習	松澤 英之	情報基盤センター
音・光で考える物理学入門	秋山 博臣	教育学部
生命科学研究入門	西頭 英起/剣持 直哉/武谷 立	医学部、フロンティア科学実験総合センター
科学技術と私たちの生活	関戸 知雄	工学部
微分積分学	大桑 良彰	医学部
物理と情報	坂本 真人/荒井 昌和	工学部
遺伝子操作入門	片山 哲郎	農学部
光と植物	八ツ橋 寛子	教育学部
染色体の行動と遺伝	佐野 順一	教育学部
生命と病気	和田 啓、医学部教員	医学部
数学の思考法	坂田 繁洋	教育学部
宇宙工学入門	各務 聡	工学部
統計学入門	大桑 良彰	医学部

外国語科目等

科目名	教員名	所属
英語	村端 五郎	教育学部
英語	ダニエル・コーツ	教育学部
英語	井崎 浩	教育学部
英語	新名 桂子	教育学部
英語	アダチ 徹子	教育学部
英語	南 太一郎	教育学部
英語	東條 弘子	教育学部
英語	横山 彰三	医学部
英語	ゲスト・マイケル	医学部

外国語科目等 (非常勤講師)

科目名	教員名
英語	市園 なお子
英語	内野 富子
英語	横山 コリーン
英語	徳地 慎二
英語	ダンカン・バットランド
英語	奥村 美保
英語	笹谷 浩一郎
英語	前 恵子
英語	デロジェ・クリストファー

英語	南部 みゆき	医学部
英語	永射 紀子	医学部
英語	玉田 吉行	語学教育センター
英語	櫛山 桐加	語学教育センター
英語	荒木 瑞夫	語学教育センター
英語	山本 佳代	語学教育センター
英語	HOMBU AMY	語学教育センター
ドイツ語	胡屋 武志	語学教育センター
フランス語	吉田 好克	教育学部
フランス語	清水 まさ志	語学教育センター
中国語	藤井 久美子	語学教育センター
中国語	上原 徳子	語学教育センター
韓国語	金 智賢	語学教育センター
日本語科目等	寺尾 智史	語学教育センター
日本語科目等	杉村 佳彦	語学教育センター
日本語科目等	伊藤 健一	国際連携センター

英語	ニコル・ヒュー
英語	ヘンスリー・ロバート
英語	メイン・マーティン
英語	ダッカー・ネイサン
英語	アリス・ホームズ
ドイツ語	井上 修一
ドイツ語	竹川 昭男
ドイツ語	衛藤 恵子
ドイツ語	武次 玄三
中国語	関 黎明
中国語	王 廣慧
中国語	劉 薇
韓国語	山下 藍
韓国語	韓 壽燕
日本語科目等	和田 恵
日本語科目等	堀田 淑乃